



英語・英語圏文化専攻

英語・英語圏文化専攻 教員

前年度卒業生 満足度調査結果

前田 隆子

今年の3月に卒業を迎えた学生に、2年間カリタス女子短大で過して満足したかどうかの調査を今年1月に実施しました。(有効回答数:67)

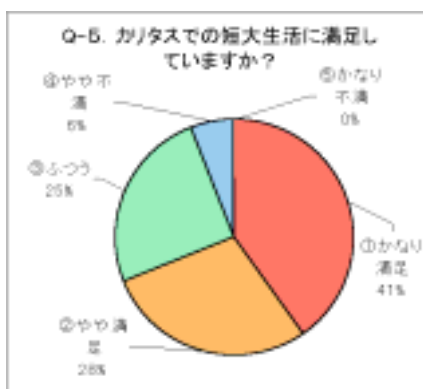
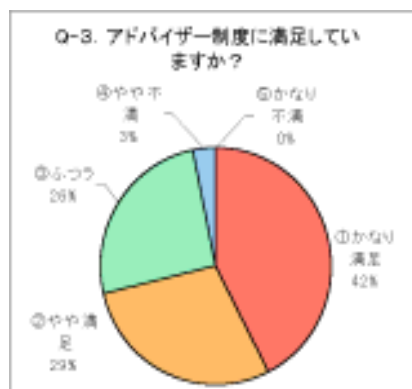
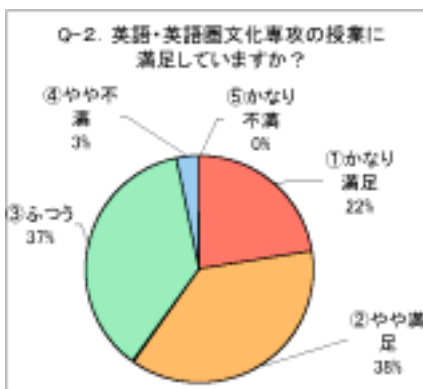
ほとんどの項目において、学生たちはおおむね満足していたようです。しかしながら、Q-1.の英語力に関しては、約4分の3の学生が「英語力がついた」と実感しているのに対し、約1割の学生が「英語力があまりついたらと思わない」と回答しています。彼女たちの理由を見ると、ほとんどが授業を休みがちだったり、自分の勉強不足を挙げて反省の弁を述べています。語学は日々の積み重ねが大事ですから、本気で英語力を伸ばそうと決意したら、カリタスの毎日の授業にしっかり参加することが必要です。それができれば結果は自ずと出てきます。p.4の「TOEIC コーナー」で同じ学生たちのTOEICの伸びをご覧いただければわかるとと思います。

Q-2.の授業の満足度に関しては、少人数制やバラエティのあるカリキュラム、及び資格取得などを理由に挙げ、約6割の学生が満足したようです。(37%の学生が「ふつう」と回答しています。)

Q-3.のアドバイザー制度に関しては、不満はほとんどなく、今後も面談などを通し学生の相談に親身に応じることが出来るよう教員一同努力したいと思えます。

Q-4.の少人数制に関しても不満はほとんどなく、この制度は多くの学生に支持されました。

最後にQ-5.の短大生活全般に関する質問に対してですが、約7割の学生が満足したと回答しています。私たちの人生の質は、人間関係によって左右されると言っても過言ではありません。短大の2年間という期間は大変短いものではありませんが、学生ひとり一人がカリタスでの出会いを大切に、これからの人生を充実させるものにしてほしいと切に願っています。



英米文学の故郷

第16回 オックスフォード

英語・英語圏文化専攻 教員

伊藤 知子



ルイス・キャロル

ルイス・キャロル(Lewis Carroll, 1832-98)は、イギリスの童話作家・数学者で、本名はチャールズ・ラトウィッジ・ドジソン(Charles Lutwidge Dodgson)です。1832年にチェシャー州(Cheshire)の小さな村ダズベリ(Daresbury)の牧師館で生まれました。

1851年にオックスフォード(Oxford)大学クライスト・チャーチ・カレッジ(Christ Church College)に入学します。そしてその後の生涯のほとんどをクライスト・チャーチ・カレッジで過ごし、生涯独身でした。キャロルがいつも食事していた大ホールには、彼の肖像画がかかっています。1854年に卒業すると母校の数学講師となります。『不思議の国のアリス』

(*Alice's Adventures in Wonderland*, 1865)は、1862年7月に大学近郊のテムズ川でボート遊びをしている時に学寮長ヘンリー・リデル(Henry Liddell)の3人の娘たちに即興で語った物語が元になっています。3姉妹の次女アリス・リデル(Alice Liddell)が主人公のモデルになっています。言葉遊びと教訓的でない物語、ジョン・テニエル(John Tenniel)の独特の挿し絵によって世界中の子どもたちから親しまれています。続編として書かれた『鏡の国のアリス』(*Through the Looking-Glass*, 1871)では、アリスが鏡の中に入って



クライスト・チャーチ

いき、そこで不思議な経験をします。キャロルはチャールズ・ラトウィッジ・ドジソンとしても数学や論理学の著作を多く発表しています。

キャロルはサリー州(Surrey)ギルフォード(Guildford)にある姉妹の家でクリスマス休暇を過ごしていた時に気管支炎にかかり、1898年1月に65歳で亡くなりました。ギルフォード博物館には遺品が展示され、町の共同墓地には彼の墓があります。

オックスフォードを訪れたのは、1995年8月でした。クライスト・チャーチの近くにあるアリスの店(Alice's Shop)は『鏡の国のアリス』に登場する羊の店のモデルで、かつては食料雑貨店でアリス・リデルもお菓子を買いにきていたそうです。現在ではアリス・グッズがあふれていて、まるで不思議の国に迷い込んだようでした。

2004年度を振り返って

英語・英語圏文化専攻 主任

北川 宣子

私たちカリタス女子短期大学 英語・英語圏文化専攻が“Kaleidoscope”を発行して、5年目に入ろうとしています。思えば5年前、本専攻のカリキュラムや行事そして卒業生の活躍ぶりなどを在學生は勿論のこと、高校生の方や先生方にも幅広く知っていただくと考え、始まったのがきっかけでした。それが、もう5年という節目を迎えることができるのは本当に喜ばしいことだと思います。毎年この時期は4月号発行のため、1年間を振り返るいい機会となっています。

さて、2004年度は4月6日にプレイズメントテストとしてTOEIC 団体受験を実施し、英語・英語圏文化専攻の1年生全員が緊張の面持ちでテストに挑みました。そして、新入生それぞれが夢膨らませた入学式。2004年度は経験豊富な社会人学生4名を迎えてのスタートでした。様々な年代の方たちが、学生にとってもいい刺激を与えてくれています。更に嬉しいことには、そのうちの1人が長期派遣奨学生として選ばれ、2005年9月よりイギリスに旅立ちます。4月15日、16日には1泊2日のオリエンテーション旅行に行き、親睦を深め合いました。5月のスポーツデーでは上級生と下級生が共に力を合わせて汗を流し、6月4日、5日には福島県の British Hills で異文化を体験し、英語漬けの1泊2日を過ごしました。2日間ともお天気に恵まれ、おいしい空気をたくさん吸ってリフレッシュ。同時に英語学習に向けてのモチベーションが高まり、7月の期末テストまでじっくり集中して勉学に励むことができました。夏期休暇中にはイギリスのランドリロ・カレッジに5週間の海外研修に参加した学生もいます。そして9月に後期がスタートしたと同時に、クラスやクラブ毎に力を合わせ10月の文化祭「あざみ祭」の準備に取りかかり、10月24日当日にはそれぞれが達成感を味わうことができました。

12月のクリスマス会では恒例のキャンドル・サービスでイエス様のご降誕をお祝いし、皆でお招きしたお客様のおもてなしをしました。1月の学年末テストでは1年生は2回目、2年生は3回目の TOEIC 団体受験に挑戦し、成果を喜び合いました。卒業生がそれぞれの道に旅立った3月15日の卒業式。その翌日から、春期海外研修の参加者はオーストラリアに旅立ちました。ホームステイをしながら南クイーンズランド大学に通う3週間、この専攻新聞が発行される頃には、きっと皆一回りも二回りも成長して帰国してくれていることでしょう。

めまぐるしく過ぎ去った 2004 年度でしたが、次年度は留学生を2名迎えて英語・英語圏文化専攻は順風満帆で新年度をスタートします。

先生へのインタビュー

このコーナーでは、カリタス女子短大の先生方に本学学生がインタビューします。今回のゲストは、仏語・仏語圏文化専攻のエリック・ボグナール先生です。インタビュアーは英語・英語圏文化専攻 1 年生の熱海有紀さんと古澤菜穂さんです。



エリック・ボグナール先生

Q - 1: 先生のご専門は何ですか？

A - 1: 音声学です。特にフランス語の鼻母音の特徴を研究しています。

Q - 2: 日本には何年いらっしゃいますか？

A - 2: 23 年です。音声学の研究は、アメリカ、スウェーデン、日本が進んでいて、大学時代にアジア人の友だちが多かったこともあり、アジアに興味を持ち、日本で研究することにしました。

Q - 3: 先生のご趣味は何ですか？

A - 3: 映画鑑賞、音楽鑑賞、読書です。日本の作家では、村上龍や遠藤周作を読み、アメリカ文学では Paul Auster や John Irving など幅広く読んでいます。学生がフレンチポップスに興味があるので、私も聞くようにしています。教育者として、現代の情報を常に把握しておくことが大切だと思います。

Q - 4: 外国語を学ぶ上で、効果的な勉強方法を教えてください。

A - 4: 映画を見て、セリフを繰り返し声に出して表現を覚えたり、リスニング・スキルをつけてみてはいかがでしょうか。私は日本語を独学で学びました。その時、『銀河鉄道の夜』を見て日本語を学びました。

Q - 5: 尊敬する人物はいらっしゃいますか？

A - 5: 自分の世界を持って、それをオリジナルな作品にできる人です。また、努力をしている学生に対しても尊敬の念を持って接しています。

Q - 6: 最後に学生にメッセージをお願いします。

A - 6: 自分の個性を大切にしてください！

TOEIC®コーナー

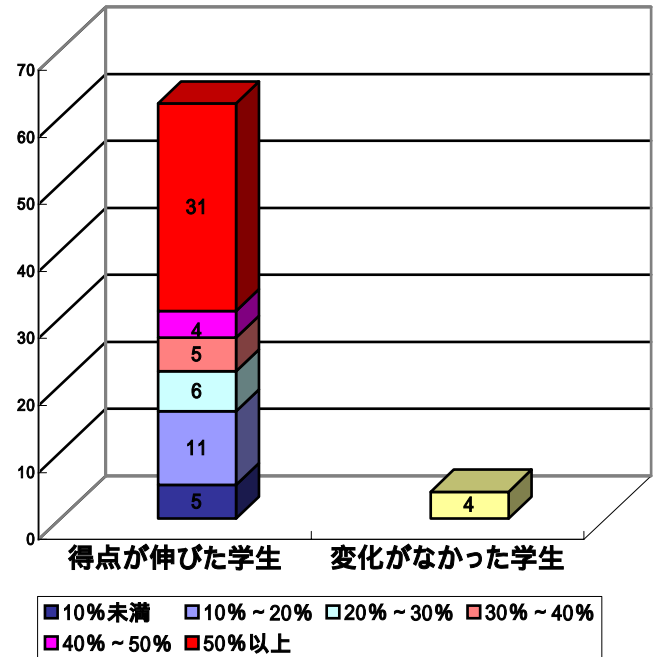
英語・英語圏文化専攻 教員
北脇 実千代

カリタスの英語・英語圏文化専攻では、今年も例年通り、1月に TOEIC® IP (Institutional Program) を実施しました。Listening Section と Reading Section から成るこの試験を受験することによって、1年生・2年生とも自らの英語力を把握することができます。カリタスでは、在学中の2年間に3回受験し、必修科目に関しては、この試験結果をもとにした習熟度別の授業を受けることになっています。そのため、1年生にとっては、今回の1月の試験は、2年生のクラス分けの参考となるものでもあり、みな緊張した面持ちで試験に臨んでいました。

一方、2年生にとって今回の試験は、カリタスの2年間で培った英語力を試す機会でした。右のグラフは、その2年生の TOEIC® の伸長度です。在学中の2年間でどの程度得点が伸びたかをグラフ化したもので、卒業生 66 名のうち 62 名もの学生の得点が伸びたことを示しています。とくに、ほぼ半数の学生が 50% 以上も得点を伸ばしたことが分かります。その中には、400 点近くも伸びて、715 点まで達した学生もいました。ちなみに、今年の最高得点は、770 点です。これは企業の中でも、海外部門で活躍できるほどの英語力といえるでしょう。

カリタスでは、TOEIC® の得点の向上を励みとする学生も多く、得点が上がったことによりますます英語が好きになったとコメントしてくれる学生も少なくありません。得点は簡単に上がるものではないと思います。やはり、日々の積み重ねが大切になってくるでしょう。きっと成果が出ることを信じて、皆さんも頑張ってみてください。

TOEIC 得点伸び率の割合(平成17年3月卒業生)



Cool Web Site

英語・英語圏文化専攻 教員
前田隆子

皆さんは英文で履歴書を書いたことがありますか？ どれだけ自己アピールできるかが勝負の英文履歴書を書いてみることは、自分の能力を分析する上でもよい訓練になるかと思えます。ご紹介した HP を参考に、書いてみてはいかがでしょうか。

「英文履歴書の書き方 基本編1」 <http://allabout.co.jp/study/bizenglish/closeup/CU20031010biz32/index.htm>

「英文履歴書の書き方」 <http://www.daijob.com/dj/ja/resume/index.shtml>

(様々な業種別のサンプルが見られます。)

カリタス女子短期大学

Caritas Junior College

〒225-0011

横浜市青葉区あざみ野 2-29-1

Tel:045-901-5133

Fax:045-901-5066

URL: <http://www.caritas.ac.jp/english>

Kaleidoscope 第 17 号はいかがでしたか？ 皆さまのご意見・ご希望・ご質問など、お気づきの点を maeda@caritas.ac.jp までお寄せください。

2005 年 4 月 10 日発行

発行責任者： 北川宣子

編集協力：東京工科大学 CS 学部 埴竜太郎

同メディア学研究科 OB 渡邊賢悟